「CATY」の名前は、「CAmpus」と「ciTY」からの造語で、地域と大学の相互理解、交流促進を目的として生まれました。「地域との共生　社会に学ぶ」を合いことばに、高等教育機関としての教育研究の成果を、地域に発信します。また学生が取材活動を通じて、読む・書く・話すといった能力を開発していくことも意図しています。

http://www.kokugakuin-jc.ac.jp

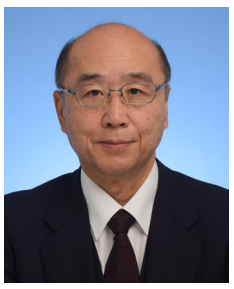
News CATY（ニュース キャティ）

2019年3月　第127号

発行／國學院大學 北海道短期大学部
滝川市文京町３－１－１
TEL0125-23-4111　FAX0125-23-5590
編集事務局長　矢口元晴

いろいろな出会いを大切に

國學院大學北海道短期大学部　副学長　平野泰樹



二年生のみなさん、卒業おめでとうございます。滝川での学生生活は、充実していたでしょうか？

今年の二月八日のことです。一人の卒業生が私の研究室を訪ねてくれました。彼は國學院大學法学部への編入学を希望して短大部に入学し、一年生のときから私のゼミ生でした。成績優秀な実に若者らしいすがすがしい学生でした。将来の仕事について話をしたとき、法学部に編入学したら在学中に行政書士の資格を取るよう勧めました。そして、卒業する少し前に、彼に行政書士受験に関する分厚い本を一冊贈りました。

その彼が、二年ぶりに、しかも若い女性を伴い研究室に来てくれたのです。女性はフランス人で妻だと紹介されました。さらに驚いたことに、彼の胸には生後一か月余りの赤ちゃんが抱かれていました。奥さんとの出会いは、短大部のスプリングフィールド短期留学がきっかけだったそうです。法学部の卒業を間近に控え、滝川の短大を見せたくて奥さんを連れてきたのことでした。

国際結婚だったので手続きが大変でしたと明るく語る彼の顔は、もう学生ではなく家族への責任をしっかり担う大人のものでした。とりわけうれしかったのは、行政書士の試験に合格したとの報告でした。彼は、すでに大手有名企業への就職が決まっています。行政書士の資格がその仕事に直接役立つことはないでしょうが、二年間法律学を真摯に学んだことは大いに役立つものと思います。

本学との出会い、留学先での伴侶との出会い、國學院大學での法律学との出会い、これから就職する会社と仕事との出会い、そして新しい命との出会い、人生は出会いによって彩られていることを一人の卒業生からあらためて教えられました。

皆さんも、これからいろいろな出会いが待っています。よい出会いがたくさんありますよう、心より願っています。

「卒業特集」未来へ力強く抱負

國學院大へ編入 さらなる磨きを

滝川にある学校にも関わらず、國學院短大は滝川出身の学生があまりいないように思います。道外からやってくる学生が多く、滝川で生まれ育った私には、学業以外の学びが多い2年間となりました。

もちろん学業も充実していました。私が国文学科を志望した動機である民俗学をはじめ、高校までの学びとは一味違う専門的な講義は自分の知識を時に深め、時に塗り替えてくれる、非常に面白いものです。博物館に所蔵されている巻物の、あのミミズのような文字が読めた時の感動を知っている人は、おそらくそういないでしょう。

私は4月から目標としていた國學院大學日本文学科に編入します。今よりもよっぽど厳しい環境に身を置くことになります。

ですが、編入は自分が望み、選んだ道です。卒業は区切りではあっても終着ではありません。私にはまだ2年間、学び、成長する猶予が残されています。私は怠惰な人間ですが、停滞をよしとしているわけではありません。一日一日を大切にし、全てを自分の糧として、先生方の恩に報いることができる人間に成長していきたいです。（国文学科2年／北山博之）

ICDと研究発表会で成長

総合教養学科としての2つの大きな行事について参加した感想を添えて紹介したいと思います。

一つは、昨年10月27日、ホテルスエヒロでのICD（International communication day の略）です。当日は数人のネイティブの講師の方をお招きし、ゼミナール単位でチームになり、色々なレクリエーションを行いました。当日は学生も講師も関係なく、全員が英語でコミュニケーションを取りながら進めました。多くの会話を重ねていくのですが、コミュニケーションを重視する内容が多く用意されており、英語が得意ではない学生も楽しく前向きに取り組めました。

イベント終了後は親睦会が開かれ、講師の方との歓談などを通してさらに有意義な時間を過ごすことも出来ました。ICDは私たち学生に英会話を通して貴重な経験を与えてくれる有意義な行事だと思いました。

もう一つは、12月15日に本学402教室で開催された総合教養学科研究発表会です。7つの各ゼミが、1年間の活動で行ってきた研究の成果を発表するものです。各ゼミの特色が色濃く出た内容となっており、発表者はもちろん、発表していない学生にも多様な考え方や価値観などについて示唆を与えてくれたものだと感じました。

2つの行事を通して、私たち学生は学修への真摯な姿勢を認識するよい機会になったと考えています。（総合教養学科2年／明瀬広太郎）

小学校教諭として頑張ります

高校生の時、國學院大學北海道短大部のオープンキャンパスに参加しました。その中で、小学校教諭の免許を2年間で取得することが出来ること、少人数のクラス編成で馴染みやすいことなど、メリットが多いことが分かりました。

私は元々、緊張しやすいため、人前で発表することがあまり得意ではありませんでした。しかし、模擬授業や発表をする機会を多く体験するにつれ、教壇に立ってもあまり緊張することがなくなりました。

2年生の8月には、母校の小学校で教育実習を体験しました。自分の中で堂々と授業をすることができたのではないかと感じています。また、座学以外にもたくさんの体験活動を経験しました。中でも昆虫好きの私にとっては、田んぼの生き物観察やホタルの里の見学が特に印象に残りました。北海道は農村地域が多いので、このような地域環境をどのように授業に生かすことができるのかを考えるよいきっかけになったと思います。

また、生活面では2年生になって初めて一人暮らしを始めました。トラブルが起きた時には大家さんが助けてくださり、クラスメイトが遊びに来てくれたりしたので、寂しさを感じることもなく生活することができました。

保育英語の経験を生かし社会へ

春からは念願の教師として北海道に採用され、小学校で勤務することになります。期待と不安が交錯していますが、子どもたちのために頑張ります。この2年間に出会った皆さんに感謝申し上げます。大変ありがとうございました。（幼児・児童教育学科　児童教育コース2年／尾中謙吾）

私はこの短大生活でたくさんの事を学び、成長できたと思います。振り返ってみるとこれまでは、自ら進んで何かに取り組んだり、人前で何かをするという事は苦手でした。

入学当初の授業でも、人前での「手遊び」や先生の前で弾く「ピアノ」などは苦手な事だらけでした。先生には「目の前に子どもがいると思ってやりなさい」と言われたりしましたが、学生だけで行うイベントや保育所実習を行っていく中で、徐々に「苦手だけど頑張ろう」と考えられるようになりました。また、短大ではたくさんの同級生に恵まれ、その人達の影響で苦手意識を克服する事ができたのだと思います。

短大生活で印象的だった出来事は、各授業で行ったイベントと保育英語でした。2年次に行った楽しい発表会では、おむすびころりんのお爺さん役を演じ、多くの事を学ぶことができました。

また、保育英語は他の大学や短大で聞いたことがなく、授業実践も貴重な経験となりました。特に、後期は4人という少ない人数での授業でしたので、準備や練習が大変でしたが前期・後期を通して英語の運用力が身につきましたし、就職先でも知識を生かしていきたいと思います。

短大生活では、サッカー部のマネージャーをやっていたこともあり、たくさんの先輩、後輩、他校の人達と関わる機会も多く、自分にはプラスになったと思います。幼児保育コースのなかでも、個性豊かな仲間と交流することができたり、先生方にもご指導いただくことで人間的にも成長できたと思います。（幼児・児童教育学科　幼児保育コース2年／冨澤美都）

学んだ知識と経験を仕事に

専攻科福祉専攻での1年を振り返って1番思うことは、恵まれた環境で授業や実習ができたということです。国家試験合格に向け日々努力する仲間や、学生一人ひとりを親身になって支えてくれた先生がいたことで、充実した1年を過ごすことができました。

入学当初は、この3人でやっていけるのかと不安でしたが、グループワークや演習などで意見を出し合い、互いにアドバイスし合いながら学びを深めることができました。他人に頼ることなく、一人ひとりが自ら発言をしたり行動することができたのは、3人という少人数だったからできたことだと思います。

また、実習では授業でなかなかできなかった実践的な介助なども体験し、専門的な知識や技術を活用する力も身につけることができました。

大変なことや辛いこともたくさんありましたが、時に笑いあえる仲間や私たちのやりたいことを積極的にやらせてくれる先生、充実した学習環境があったからこそ乗り越えられたと思います。

卒業後は、学んだことや経験を活かし就職先でも頑張っていきます。19期生3人と過ごしたこの1年は忘れません。本当にありがとうございました！（専攻科福祉専攻／鈴木成美）

利用者理解の大切さなどを実感

私は昨年10月15日から11月23日までの6週間、特別養護老人ホームで実習をさせていただきました。長期間でしたが、職員の方に助けていただき、また、先生方にも叱咤激励されながら利用者の方々と過ごした実習は、あっという間に終わってしまったように感じます。

実習では利用者の方を1名受け持たせていただき、介護計画の立案・実践を行いました。利用者の方や職員の方からの情報をもとに、「利用者の方の生活の楽しみを増やす」「心身への不安が軽減するよう声掛け・援助を行う」という2つの援助を計画しました。しかし、自分が考えていたようには進まないこともありました。

実習を振り返ると、利用者理解の大切さと難しさを感じました。反省や課題の多く残った実習でしたが、ただ知識や情報を得るだけでなく、そのことが利用者の方にとってどのような意味や思いがあるのか常に考えていくことが、利用者をより理解し、心身に寄り添った支援を行う上で重要だと気づくことができました。（専攻科福祉専攻／梅津里穂）

「卒業論文発表会」視野を広げる機会に

国文学科は「古典」「民俗学・民話」「中国文化・文学」「歴史・神道」「文芸創作」「教育学」の分野を学べるのが最大の特色です。また、学生が主体となって運営し、2年間で学んだことを各ゼミの代表が発表する「卒業論文発表会」を大切にしています。

昨年12月12日、ホテルスエヒロにて、今年度の卒業論文発表会が行われました。この発表会では分野と学年の垣根を越えた話を聞けるため、多くの意見に触れることができます。また、10分という限られた時間のため、配布された資料は聴衆にもわかりやすいように表や図の工夫が施されています。充実した資料と的確にまとめられた発表は、各自が取り組んでいる学びのヒントになったに違いありません。

例年1月上旬に提出する卒業論文は、2年生にとって國學院大學北海道短期大学部で学んだことの集大成です。これまでの努力が形になって現れます。一方、1年生にとっては、2年生の発表から、これからの学びにどう活かすかを考え、課題に取り組むための第一歩となります。例えば、蛇の信仰は「神道」と「民俗学」の双方の視点からアプローチする必要があり、一方向から考えて行き詰まりがちな私にとって視野を広げて考える大変よいきっかけとなりました。（国文学科1年／小倉田楓）

稲作体験活動で農業の苦労と喜び知る 食育の大切さを実感

私たち児童教育コース2年生は、江部乙の平澤農場をお借りし、生活概説と生活科指導法の授業を通して稲作体験活動に取り組みました。春の田植えから始まり、稲の生育観察・水田の生き物調査、稲刈り・はさかけ、脱穀・精米を行い、12月の収穫祭で活動を締めくくりました。これらの様々な体験活動を通じ、農業の喜びとともに苦労も感じることができました。

特に収穫祭では、地域の皆様方の協力を得ながら、おにぎりやお雑煮を作りました。また、現在の家庭ではほとんど体験できない臼と杵を使った餅つきを行ったり、収穫したお米でおにぎりを作って食べたりしました。いつも以上に美味しく感じることができたのは、稲作体験に携わることで、米作りの苦労を身近なものとして知ることができたからだと思います。また、一連の作業を通して、食の大切さと食育の重要性を学習することもできました。

将来、学校に勤務して稲作体験活動を行う立場になった際は、今回の経験は必ず役に立つ貴重なものになると思います。

終わりになりますが、これまで1年間、農作業の一つひとつを丁寧に教えていただいた地域の皆様に改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。（幼児・児童教育学科　児童教育コース2年／森口慶紀）

2年間でさまざまな経験積み重ねる 編入後も挑戦し成長

平成29年4月、國學院大學北海道短期大学部に入学する際、私はこの短大で多くのことに挑戦し、多様な経験を積もうと決めていました。今、2年間を振り返ってみると、それらを達成することができていたように思えます。

1年次には、舛井ゼミナールに所属し、舛井先生をはじめ、先輩方から多くの事を学びながら地域活動に励みました。また、2年次には、ティムゼミナールに所属し、総合教養学科の大きな行事であるICDの運営を行い、初めて人前で英語のスピーチをする機会に恵まれました。さらに、3週間の教育実習、学生会の役員として臨む「ありす祭」、全国まちづくりカレッジなど多様な経験を積み重ねることができました。

これらの行事が立て込んだ時期には、精神的にも肉体的にも疲れがたまっていましたが、辛い時期にはいつも友人がそばで私の話を聞いてくれたので、乗り越えることができました。友人には心から感謝の気持ちを伝えたいと思います。

短大での多くの経験はどれも価値のあるものであり、成長するきっかけとなりました。先生方や先輩方がおっしゃっていた「語れる2年間にしろ」という言葉を思い出します。私は自信をもってこの2年間、自分が何をしてきたのか話すことができます。

このように有意義な2年間を過ごすことができたのは、両親をはじめ、諸先生、職員の方、地域の皆様、そしていつも助けてくれた友人のおかげだと思います。この感謝の気持ちを忘れず、國學院大學3年次編入後も常に挑戦し続け、成長していきたいと考えております。（総合教養学科2年／熊谷朱香）

思い出に残る「たのしい発表会」 貴重な体験を今後に

私は國學院短大部で行われた「たのしい発表会」をはじめ、数カ所の幼稚園や施設を訪問し、歌や踊りの公演を行いました。演目は、「にほんごのおけいこ」「どんぐりころころ」「たきび」「手のひらを太陽に」「ピクニック」「ミッキーマウスマーチ」などでした。

私はピアノの伴奏者として公演に参加し、皆は子どもたちや施設の方々の前で歌ったり踊ったりしました。「にほんごのおけいこ」では、黒い紙を張って平仮名を書いた夕ンボールを制作。その平仮名が歌詞として出てきた時に、上に高く上げたりする振り付けだったため、文字の見えやすさなどを試行錯誤しながら伴奏に合わせて練習しました。公演の最後、1年生と2年生が一緒に歌いながら踊りや行進を行った。

「ミッキーマウスマーチ」では、みんなが知っている曲ということもあり、会場全体が一体となって楽しむことができました。

私はピアノ伴奏の練習を重ねてはいましたが、緊張でたくさんのミスをしてしまったことをとても後悔しています。特に「たきび」ではミスをしても皆がそのまま歌い続けてくれるなど、フォローをしてくれました。そして、楽しそうにしている子どもたちや施設の方々を見ることで、自然と落ち着いて伴奏ができ楽しむ余裕もできました。今後、伴奏する機会があればこれらの経験を生かしながらピアノ伴奏に取り組んでいきたいと思います。（幼児・児童教育学科　幼児保育コース2年／小泉菜湖）

NewsCATYの発行について

平成30年10月から休刊していましたNewsCATYは、市民のみなさんに本学の教育活動をより広く知っていただくため、平成31年３月号から隔月で再刊いたします。内容も今まで以上のものを目指して参りますので、今後ともご高覧いただきますようお願い申し上げます。